

聖書

ローマ人への手紙8章14～17節

8:14 神の御霊に導かれる人はみな、
神の子どもです。

8:15 あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の
霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。
この御霊によって、私たちは「アバ、父」と叫びます。

8:16 御霊ご自身が、私たちの霊とともに、私たちが神の子どもであることを証ししてください。

8:17 子どもであるなら、相続人でもあります。私たちはキリストと、栄光とともに受けるために苦難とともにしているのですから、神の相続人であり、キリストとともに共同相続人なのです。

説教

「父なる神を信ず。」

使徒信条からの3回目の説教です。
皆様と一緒に今日も使徒信条を告白しましょう。

使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生れ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけ
られ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくたり、三日目に
死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる
神の右に座したまえり。

かしこより来たりて生ける者と死にたる者とを
審きたまわん。

我は聖霊を信ず。

聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体
(からだ)のよみがえり、永遠(とこしえ)の生命(いのち)
を信ず。

アーメン

前回は「全能の神を信ず」と言うテーマでしたが
今日は

「全能の父なる神を信ず。」と言う告白の
父なる神を信ずと言う告白、主なる神様は私たちの
お父様である、ここに焦点を当てて行きます。

天地の創り主なる神、

全能の神というと、大いなる神、偉大なる神、

遠くにいたもう神と言うイメージ。

その神の前には人間は小さな小さな小さな存在。

神は偉大すぎて

人格のある神の交わりや愛、と言うイメージを抱くのが

難しいです。

一神教、唯一の神を信じる宗教は
キリスト教、ユダヤ教、イスラム教です。
キリスト教は全能の神を父なる神と呼び、
全能の神はイエス・キリストの父なる神、
イエス・キリストは子なる神、
と告白する中で、
偉大なる神様を人格的に、父、アバ父、と親しく呼
び、交わるところがキリスト教の特徴です。

私たちは「天のお父様」と親しく呼んでいます。

イエス様もこのように教えています。

6:9「ですから、あなたがたはこう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名が聖なるものとされますように。』」

父なる神は、イエス・キリストの父なる神様でいらっしゃいます。

使徒信条は三つの部分からなっています

①父なる神様についての告白、

②イエスキリストについての告白、

③聖霊についての告白、

三位一体の神様を信じています、という告白です。

第一は父なる神様についての告白。

聖書の教える神様は

天地の創り主

全能の神

父なる神

を信じると告白しています。

ヨハネ20:17

イエスは彼女に言われた。「わたしにすがりついていてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないのです。わたしの兄弟たちのところに行って、『わたしは、わたしの父であり、あなたがたの父である方、わたしの神であり、あなたがたの神である方のもとに上る』と伝えなさい。」

天地創造の神を父なる神、
キリストはわたしの父と呼んでおられ、
あなた方の父とも呼んでおられます。
信仰によって神の子とされた私たちは
全能の神を

アバ父、親しく信頼を持って「お父様」と呼び、祈れる
恵みの世界に入れられています。

「父なる神を信ず」と言う告白は、主イエス・キリストの父なる神を信じますと言う告白ですから、使徒信条の第二の部分、イエス・キリストを信じます、との告白への橋渡しになっています。

イエスさまはマグダラのマリヤに

『わたしは、わたしの父であり、あなたがたの父である方、
わたしの神であり、あなたがたの神である方のもとに上
る』と伝えなさい。」

ヨハネ20章17節

主なる神様はイエス・キリストの父であり、

また私たちの父

イエス・キリストは神の子であり、

私たちも神の子

同じ神の子と呼ばれますが、どこが違うのでしょうか。

ヨハネ1:18

いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。

ヨハネはイエス・キリストをひとり子の神と呼んでいます。
キリストは神によって造られた存在ではなく、神から生
まれたひとり子の神です。

コロサイ1:15

「御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られ
たものより先に生まれた方です。」

これを「永遠の出生」と言う神学のことばで表現、説明しています。

神から生まれた神ですから、父なる神と同じ本質と力を持っておられ、創造者なる神であられ、永遠なる神、全知全能なる永遠の神であられます。

キリストは全能、永遠、遍在の神でありますから、
キリストのおられない時はありません。

ヨハネ1章1節

「初めにことばがあった。ことばは神と共にあった。ことばは神であった。」ことばはキリストです。

父なる神から子なるキリストがお生まれになったのは永遠の始まりの前、

キリストは世界の始まる前から、神の子として神と共に
おられました。

コロサイ1:16

「なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。1:17 御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています。」

キリストは人の子としてこの世界に来てくださったのはクリスマス
の時、ベツレヘムの馬小屋でマリヤを母として
この世でお生まれになってくださいました。

永遠の神様が人となってこの世に来てくださったのがク
リスマス。

でもキリストは永遠の昔から子なる神として霊の世界
に存在をしておられ、クリスマスに人としてこの世界に
来てくださいました。

子なる神キリストがこの世界に来てくださったことによっ
て、キリストを通して
より具体的にこの父なる神様を
知り、交わり、賛美、礼拝をする事が出来る様にな
ります。

キリストは神から生まれた神の子、
生まれた子ですから父なる神と
本質を同じくするお方、神様であります。

人間は神に造られた被造物であります。

被造物でありますので

神のかたちに似せて創られていても
神と本質を同じくするものではありません。

全能でも無限でも永遠でもありません。

さらにアダム・エバが創造された時は神のかたち、神に似せられていましたが、罪を犯して墮落したので、放蕩息子の様に父から離れ、子と呼ばれる資格を失い、罪の泥だらけになっていました。

そんな罪だらけの私たちでも、

イエスさまを信じる事によって

「1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。」

信仰により神の子とされ、全能の神を「父なる神」もつと親しくお父ちゃん「アバ、父」と呼べる様にさせていただいたのです。

キリストは父なる神様の無限の愛、赦しの愛を教えてください。
おられます。

ルカ15章の放蕩息子を赦し受け入れる父の姿に父
なる神の愛が現されています。

15:11 イエスはまた、こう話された。「ある人に二人の息子がいた。15:12 弟のほうが父に、『お父さん、財産のうち私にただく分を下さい』と言った。それで、父は財産を二人に分けてやった。15:13 それから何日もしないうちに、弟息子は、すべてのものをまとめて遠い国に旅立った。そして、そこで放蕩して、財産を湯水のように使ってしまった。15:14 何もかも使い果たした後、その地方全体に激しい飢饉が起こり、彼は食べることに困り始めた。

15:15 それで、その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑に送って、豚の世話をさせた。

15:16 彼は、豚が食べているいなご豆で腹を満たしたいほどだったが、だれも彼に与えてはくれなかった。

15:17 しかし、彼は我に返って言った。『父のところには、パンのあり余っている雇い人が、なんと大勢いることか。それなのに、私はここで飢え死にしようとしている。

15:18 立って、父のところに行こう。そしてこう言おう。「お父さん。私は天に対して罪を犯し、あなたの前に罪ある者です。

15:19 もう、息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください。」』15:20 こうして彼は立ち上がって、自分の父のもとへ向かった。ところが、まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけて、かわいそうに思い、駆け寄って彼の首を抱き、口づけした。15:21 息子は父に言った。『お父さん。私は天に対して罪を犯し、あなたの前に罪ある者です。もう、息子と呼ばれる資格はありません。』

15:22 ところが父親は、しもべたちに言った。『急いで一番良い衣を持って来て、この子に着せなさい。手に指輪をはめ、足に履き物をはかせなさい。15:23 そして肥えた子牛を引いて来て屠りなさい。食べて祝おう。15:24 この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。』こうして彼らは祝宴を始めた。

父の財産を生前に奪うようにして自分のものとして、放蕩三昧に明け暮れ、財産がなくなって、貧困の極みになったとき、ボロボロの姿で帰る息子を、父は哀れに思い、無条件、無限の愛で息子を抱きかかえ、上等の服を着せ、靴を履かせ、手に指輪をはめ、上等の家畜を屠って息子の帰還パーティを開いて放蕩した墮落した息子の子として受け入れて、愛して、交わっています。

今日読みましたローマ8:15では「あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ、父」と叫びます。」と書いています。

放蕩三昧して貴重な親の遺産を食い潰してしまった。
家に帰ってきてても、父は赦してくれてても、息子の心の中
には罪責感、敗北感、挫折感、自分はダメだと言う
無力感が支配しています。

そんな息子の心に聖霊が働いてくださいます。
「8:14 神の御霊に導かれる人はみな、神の子どもです。8:15 あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ、父」と叫びます。」

法的に赦された、受け入れられただけでなく御霊は私たちが生まれ変わらせて、新しくしてくださって、父なる神様をアバ父と呼ばせてくださいます。

御霊が働く時、心の中に奇跡が起こります。

罪が赦され、自責の念が消えて、生まれ変わって、新
しく神の子として生まれて

アバ父、お父ちゃん、と父なる神を呼び、交わり、信頼
することが出来ます。

私たちは良い親に育てられていながら放蕩息子のような罪を犯すことがあります。

しかし逆の人生を歩む人も罪の世の中にはいます。良い親を願っていながら、悪い親の元で傷つきながら育つ人もいます。

親に虐待される、ネグレクト、育児放棄をされる、親と親との絶え間ない争い、両親の決裂、親の不道徳によって傷を受けて育つ子。

残念ながら子は親を選ぶことが出来ない。

普通の親であっても成績によって子を評価する、
子どもに自由を与えない、行く先を決めてしまう、
罪人が親になって育てて行く中で、子どもはひずみ、傷
ついて大きくなります。

父なる神を信じる、この告白は
私たちには肉の親がいる、しかし、イエスさまを信じるこ
とを通して神の子とされた私たちは、父なる神様を、本
当の父、本当の親、と親換えをする時でもあります。
この地上では神の愛の様な親の愛を受けることが出来
なかつても、神を神として信じ、神のもとに立ち返る時、
御霊に取ってアバ父と呼ぶことによって、
神の愛によって心の傷が癒やされて行きます。

放蕩息子、反逆息子を抱きしめた父なる神様、
放蕩息子の心の中に注がれた御霊の働き、
同じ事が信じている私たちにも起こっています。

聖書のことばをかみしめながら、私の人生にもこの愛が、
この御霊が働いている事をイメージして、信じて、アバ、
父の愛に包まれてこの一週も歩みましょう。

祈り。